



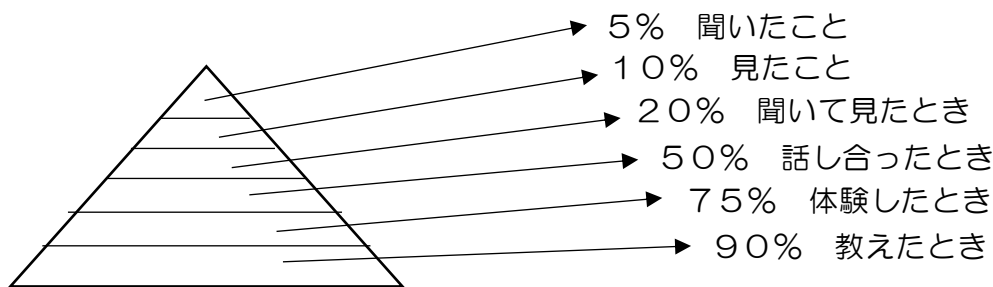
～年間聖句～「キリストの言葉があなた方の内に豊かに宿るようにしなさい。」 コロサイ書 3章 16節

ピグマリオン効果

「学習の雰囲気」づくりのポイントとして、同じ空間で、全員で、目標に向かって授業をする場合は、「このクラスと一緒に学ぶ、学び合う」という空気づくりを意識することが学力向上の秘訣になります。そうすると、その集団は、「このメンバーで学び合うと必ず学力が向上する」といった期待をもつようになります。実は、その期待感は学力向上効果につながるという調査研究があります。これを「ピグマリオン効果」といいます。

また、生徒同士の学び合いにおいて小グループやペア活動を行う場合は、昨年の Sense of Mission 5月号（学校 HP で見ることができます）でお話したように「価値あるメッセージの送り手」になることが、学力向上や互いの自己有用感を高めたり、役目意識を育てたりすることの効果が期待できます。下図に「学びの記憶（ラーニングピラミッド）」を示します。みんなで雰囲気よく授業をつくる根拠にもつながると思います。

「学びの記憶（ラーニング・ピラミッド）」



自分の考えをつくり、他者と交流することが一番「学びの記憶」が高い！だから筋道を立てて説明すること（論理的思考力）とコミュニケーション力は重要。

上図の「ラーニングピラミッド」からもわかるように、人とのかかわりの中で「学びの記憶」は効率的に獲得できます。科学的根拠もあるということです。そうすると「学力向上と学校生活は表裏一体」ということになります。つまり、どちらもよくなるか、どちらも悪くなるかということです。

人のやる気というものは、落ち着いた安心感のある状態でないとエネルギーが生まれません。つまり、クラスが落ち着いていると、「やってみよう」という人が増え、その相乗効果で自分自身も気持ちののっていただけるようになります。

これまで述べた科学的根拠から、本校では「ミッションAL（アクティブ・ラーニング）」を教科活動だけでなく、様々な活動においても学習プロセスとしています。

ミッションAL

【序盤】①ゴールをつかむ マインドセット

②学習の流れをつかむ 50分後になりたい自分

【途中】③思考を停止・放棄しない 聴く・考える・説明する

【終盤】④チャレンジする・レビューする 家庭学習につなげる

（学校長 重枝 一郎）